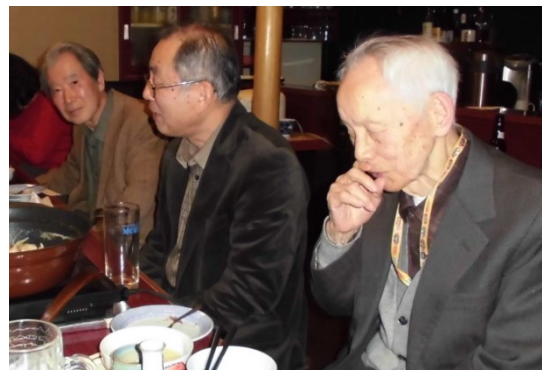


古事記を読む会 26号 (2017, 2, 5)

12月の古事記を読む会は、イズミ氏の提案であった。イズミ氏が2008年に作成された「現代日本語音図」について詳説していただいた。目次にそって、1、「五十音」を見直す。2、「現代日本語音図」のころみ、3、「8音図」、4、コトバの流通原理、5、日漢英音韻比較のあゆみ、と進んだ。「このような音だと、このような姿がイメージできる。という音図が欲しい。外来語を含めてそれらを表す音図が是非欲しい。」と試作された。音声と事物の姿は一対一対応は出来ないが、何か共通のものがあるはずと、日本語と漢語に英語を加えて検討。音図を開くと、a-aからt-tまで64音図に分けて示してある。たとえば、m-k音は(マク、マグ、ムク)として、【日】ムギをマク。土をまきつける。メをムク。マク(娶・巻・蒔・任・罷・負・設)・・・中略 【漢】マmag(麻・馬)→mega・・・略・・・【英】mag(マク・マグ)→make作る・・・略・・・と膨大なコトバの吟味をされている。ゆっくり読んでみたい。さて、コトバの流通原理のところ、「どの民族のどんな単語も孤独ではない。必ず親子・兄弟などの家族関係をもつ。ヒトの家族をつなぐものが血スヂ、コトバの家族をつなぐものが「語根」である。」という解説に妙に納得。富山弁の「ナーン」がnoにピッタリ当てはまることを思い出したからだ。イズミ氏が永年かけて編み出された音図に触れさせていただいたことに感謝するとともに、同音のコトバは共通の姿をイメージするという追究の道を今も熱く歩まれている氏に深く敬意を表する。



この日は、射水神社で開催された竹田氏の「古事記」関係の研修に参加した会員が数名あり、5時半から「つむぎ乃」で開催の忘年会へと忙しい日程だった。しかし、服部先生からいただいた出雲名物「八塩折之酒」の味が辛く・熱く・美味しかった。

本日の提案

2月5日 本日の提案 針山康雄氏 「古事記に見る建物用語を考える」

次回

3月5日の提案 五十嵐頭房氏 「神話にみられる外来文化の伝来」

参考箇所 天孫降臨等 p113～

4月2日の提案

「 」